

【第2回佐高ミュージアムセミナー】

花粉の化石から 江戸時代の環境を調べる



7月16日（土）宇都宮大学の松居誠一郎教授による佐高ミュージアムセミナーが行われた。附属中生7名、佐高生9名、計16名が参加した。

生物室集合の後、バスで足利市の狭間湿地に移動し、湿地や池の堆積物を深さ数mにわたって特殊な器具を使って採取した。この中には江戸時代かそれよりも古い時代の地層がかくれている。

午後はこの泥の中から顕微鏡で花粉の化石を探して観察をした。これにより当時どのような樹木が多かったかを推定するのである。結構、根気のいる仕事であるが、中学生も集中力をとぎらすことなく、1時間以上も顕微鏡をのぞいていた。さすがは佐高生、附属中生である。

（感想）

S君：化石から江戸時代のことがわかることに驚いた。

T君：こんな器具で何千年前の土が採取できるんですね。

（M先生：いや、これはこれで大がかりな装置なのだよ）

Kさん：将来、理科の先生になって、このようなおもしろいことを生徒に伝えたい。

松居先生も満足されていたようである。